

資質向上のためのセルフチェックシート 【教諭】

所属	
氏名	

記入年月日	令和	年	月	日
記入年月日	令和	年	月	日

キャリア・ライフステージ	基礎力の形成期				
年齢・教職経験年数(目安)	23歳～27歳 ・ 1～5年				
目指す教員像	初任校における学校勤務の経験を通じて、教育活動に関する基礎的な職務遂行能力を身に付けている。				
岩手の基本研修	初任者研修	2年目研修	3年目研修		
資質向上に関する指標		自己評価 ※			
		(①基本研修時)		(②年度末)	
		4	3	2	1
		4	3	2	1
1 教員としての素養					
自ら学び続ける意欲・探究心	全ての児童生徒の可能性を引き出すため、「個別最適な学び」「協働的な学び」など「令和の日本型学校教育」を理解するとともに、時代や社会の変化、キャリア・ライフステージに応じて求められる資質を高めながら、自律的に学び、探究する姿勢を継続している。				
使命感、責任感、倫理観	教員としての使命や責任、岩手の教育を担う一員であることを深く自覚し、教育への情熱と誇り、高い倫理観を持っている。また、岩手の未来を担う児童生徒の生命を尊重し、自ら、そして組織におけるコンプライアンスの徹底に取り組んでいる。				
教育的愛情、人権意識	教育に携わる者として児童生徒に対する深い愛情を持ち、真剣に向き合っている。また、「子どもの権利条約」や「こども基本法」などの理念を踏まえ、人権尊重の意識を身に付けている。				
豊かな人間性	豊かな人間性を持ち、社会人としての常識や幅広い教養を身に付けている。				
コミュニケーション力	学校内外の様々な背景・価値観を持つ人々との対話を通して、円滑なコミュニケーションを図るとともに、チームとして課題解決に取り組むことの重要性を深く認識している。				
課題に立ち向かう力	心身共に健康で、様々な状況でも感情をコントロールしながら、忍耐力とチャレンジ精神を持って、新たな教育課題を含む様々な課題解決に取り組んでいる。				
2 学習指導力					
カリキュラム・マネジメント	学校教育目標に基づく教育課程を理解し、学びの連続性や教科等横断的な視点を持って、学習指導を実践している。				
教科教育等の専門性	各教科等に求められる資質・能力や、指導と評価に関する理解のもと、教材研究等を実践している。				
確かな学力を育む授業	児童生徒の発達段階を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の観点から、学習者中心の授業となるよう改善を図っている。				
3 生徒指導力					
発達支持的生徒指導	学級経営の方針に基づき、集団指導及び個人指導の両面から、全ての児童生徒に対する必要な生徒指導を実践している。				
いじめ等の問題行動・不登校等への対応	いじめ等の問題行動・不登校等の未然防止に努め、兆候を発見する視点を持って児童生徒一人一人と向き合うとともに、他の教員や関係機関との連携を心がけている。				
教育相談	学校の教育相談体制を理解し、必要に応じて助言を受けながら、随時的・計画的に教育相談の機能を教育活動に生かしている。				
4 マネジメント力					
学校組織における連携・協働	校内における自己の役割を理解し、必要に応じて同僚の助言を受けながら業務を推進している。				
危機管理	常に児童生徒の安全や健康に配慮し、日頃から同僚との情報の報・連・相に努めている。				
関係者等との連携・協働	学級や部活動等で、担当する児童生徒の保護者と積極的なコミュニケーションに努めている。				
5 復興教育の視点					
	復興教育の理念や3つの教育的価値などを理解するとともに、児童生徒が震災の経験や教訓を学ぶ機会を設定するなど、復興教育を実践している。				
6 キャリア教育の視点					
	本県のキャリア教育の考え方や学校の実情などを理解し、学びの連続性や社会との接続を意識しながらキャリア教育を実践している。				
7 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への教育の視点					
特別支援教育	児童生徒一人一人の特性や学習状況の理解に努め、教職員間の共通理解や関係機関との連携・協働を進めて、指導内容や指導方法を工夫している。				
多様性への配慮	特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の特性等を理解し、多様性への配慮の視点を持って支援している。				
8 ICTや情報・教育データの利活用の視点					
	学校におけるICT活用の意義を理解し、授業や校務等での積極的・効果的な活用を図るとともに、児童生徒の情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための授業実践等を行っている。				
	幅広く教育データを活用し、自らの指導の改善と、児童生徒の学習の改善を図ることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に取り組んでいる。				

※「自己評価」 4:よく当てはまる 3:どちらかというと当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない

自己の資質向上のために今後取り組みたい事項、伸ばしたい力等	※ 備考欄
-------------------------------	-------

資質向上のためのセルフチェックシート 【教諭】

所属	
氏名	

記入年月日	令和	年	月	日
記入年月日	令和	年	月	日

キャリア・ライフステージ	実践力の向上期
年齢・教職経験年数(目安)	28歳～32歳 ・ 6～10年

目指す教員像	複数の学校勤務の経験を通じて、教諭としての基盤を確立し、自らの実践を常に振り返りながら、職務遂行能力を向上させている。
---------------	---

岩手の基本研修	教職経験者5年研修(6年目)
----------------	----------------

資質向上に関する指標		自己評価 ※							
		(①基本研修時)				(②年度末)			
		4	3	2	1	4	3	2	1
1 教員としての素養									
自ら学び続ける意欲・探究心	・全ての児童生徒の可能性を引き出すため、「個別最適な学び」「協働的な学び」など「令和の日本型学校教育」を理解するとともに、時代や社会の変化、キャリア・ライフステージに応じて求められる資質を高めながら、自律的に学び、探究する姿勢を持ち続けている。								
使命感、責任感、倫理観	・教員としての使命や責任、岩手の教育を担う一員であることを深く自覚し、教育への情熱と誇り、高い倫理観を持っている。また、岩手の未来を担う児童生徒の生命を尊重し、自ら、そして組織におけるコンプライアンスの徹底に取り組んでいる。								
教育的愛情、人権意識	・教育に携わる者として児童生徒に対する深い愛情を持ち、真剣に向き合っている。また、「子どもの権利条約」や「こども基本法」などの理念を踏まえ、人権尊重の意識を身に付けている。								
豊かな人間性	・豊かな人間性を持ち、社会人としての常識や幅広い教養を身に付けている。								
コミュニケーション力	・学校内外の様々な背景・価値観を持つ人々との対話を通して、円滑なコミュニケーションを図るとともに、チームとして課題解決に取り組むことの重要性を深く認識している。								
課題に立ち向かう力	・心身共に健康で、様々な状況でも感情をコントロールしながら、忍耐力とチャレンジ精神を持って、新たな教育課題を含む様々な課題解決に取り組んでいる。								
2 学習指導力									
カリキュラム・マネジメント	・教育課程の編成・実施・評価・改善の状況を踏まえ、学びの連続性や教科等横断的な視点を持って、学習指導を実践している。								
教科教育等の専門性	・各教科等に求められる資質・能力を明確に理解し、指導と評価の改善を図りながら、教材研究等を実践している。								
確かな学力を育む授業	・児童生徒の発達段階を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の観点から学習過程を構想するなど、学習者中心の授業となるよう改善を図っている。								
3 生徒指導力									
発達支持的生徒指導	・学級・学年・部活動など様々な場面において、多様性を踏まえた児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導の両面から発達支持的生徒指導を実践している。								
いじめ等の問題行動・不登校等への対応	・いじめ等の問題行動・不登校等の未然防止に努めるとともに、実践や研修等を通じながら発生時の対応スキルを身に付け、組織的に児童生徒の成長を支援している。								
教育相談	・実践や研修等を通してカウンセリングや教育相談に関する技法を身に付けるとともに、スクールカウンセラーや養護教諭と積極的な情報共有に努めている。								
4 マネジメント力									
学校組織における連携・協働	・分掌内の動きを見直し、同僚と協働して業務を推進しながら、分掌運営に必要なスキルを向上させている。								
危機管理	・危機的確な予測や、危機を察知した際の迅速な対応を意識して行動している。								
関係者等との連携・協働	・保護者や地域など、関係者と良好な関係を築き、教育活動に生かしている。								
5 復興教育の視点									
	・地域の実情・課題に応じて、児童生徒が、様々な教科等での学びを通して地域や関係機関と積極的に関わりながら、震災の経験や教訓を学ぶ機会を設定するなど、復興教育を展開し、復興・発展を支える人づくりに取り組んでいる。								
6 キャリア教育の視点									
	・家庭、地域、企業、関係機関との関係を積極的に築きながら、キャリア教育を展開している。 ・児童生徒の主体的な進路選択に資するよう、ライフデザイン能力の育成を図っている。								
7 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への教育の視点									
特別支援教育	・教職員間の共通理解の促進や関係機関との連携・協働のもと、個別の指導計画に基づいた指導を行い、客観的な視点による評価を行いながら指導を改善している。								
多様性への配慮	・特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の特性等を理解し、多様性への配慮の視点を持ちながら、学習上・生活上の支援の工夫を行っている。								
8 ICTや情報・教育データの活用への視点									
	・学校におけるICT活用の意義を理解し、授業や校務等での積極的・効果的な活用を図るとともに、児童生徒の情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための授業実践等を行っている。 ・幅広く教育データを活用し、自らの指導の改善と、児童生徒の学習の改善を図ることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に取り組んでいる。								

※「自己評価」 4:よく当てはまる 3:どちらかというと当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない

自己の資質向上のために今後取り組みたい事項、伸ばしたい力等	※ 備考欄
-------------------------------	-------

資質向上のためのセルフチェックシート 【教諭】

所属	
氏名	

記入年月日	令和	年	月	日
記入年月日	令和	年	月	日

キャリア・ライフステージ	実践力の充実期
年齢・教職経験年数(目安)	33歳～37歳 ・ 11～15年
目指す教員像	学校運営の中堅として、学校全体を見渡す視野を持ち、若手教員の模範となりながら職務遂行能力を更に高めている。
岩手の基本研修	中堅教諭等資質向上研修(11年目)

資質向上に関する指標	自己評価 ※							
	(①基本研修時)				(②年度末)			
	4	3	2	1	4	3	2	1
1 教員としての素養								
自ら学び続ける意欲・探究心	・全ての児童生徒の可能性を引き出すため、「個別最適な学び」「協働的な学び」など「令和の日本型学校教育」を理解するとともに、時代や社会の変化、キャリア・ライフステージに応じて求められる資質を高めながら、自律的に学び、探究する姿勢を持ち続けている。							
使命感、責任感、倫理観	・教員としての使命や責任、岩手の教育を担う一員であることを深く自覚し、教育への情熱と誇り、高い倫理観を持っている。また、岩手の未来を担う児童生徒の生命を尊重し、自ら、そして組織におけるコンプライアンスの徹底に取り組んでいる。							
教育的愛情、人権意識	・教育に携わる者として児童生徒に対する深い愛情を持ち、真剣に向き合っている。また、「子どもの権利条約」や「こども基本法」などの理念を踏まえ、人権尊重の意識を身に付けている。							
豊かな人間性	・豊かな人間性を持ち、社会人としての常識や幅広い教養を身に付けている。							
コミュニケーション力	・学校内外の様々な背景・価値観を持つ人々との対話を通して、円滑なコミュニケーションを図るとともに、チームとして課題解決に取り組むことの重要性を深く認識している。							
課題に立ち向かう力	・心身共に健康で、様々な状況でも感情をコントロールしながら、忍耐力とチャレンジ精神を持って、新たな教育課題を含む様々な課題解決に取り組んでいる。							
2 学習指導力								
カリキュラム・マネジメント	・教育課程の編成・実施・評価・改善を主体的に進めながら、学びの連続性や教科等横断的な視点を持って学習指導を実践し、若手教員に模範を示している。							
教科教育等の専門性	・各教科等に求められる資質・能力を明確に理解し、指導と評価の改善を図りながら、教材研究や教材開発を実践し、若手教員に模範を示している。							
確かな学力を育む授業	・児童生徒の発達段階や多様性を踏まえて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、学習者中心の授業実現の観点から、積極的に研究授業の授業者を務めるなど、若手教員に模範を示している。							
3 生徒指導力								
発達支持的生徒指導	・養護教諭など様々な立場の同僚との連携のもと、多様性に配慮した児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導相互の調和を図った発達支持的生徒指導を実践している。							
いじめ等の問題行動・不登校等への対応	・校内での研修や情報共有に主体的に取り組み、若手教員のスキル向上を支援しながら、いじめ等の問題行動・不登校等に関する学校の対応力向上に取り組んでいる。							
教育相談	・実践を通してカウンセリングマインドを身に付け、教育活動や保護者面談等に教育相談的配慮を生かしている。							
4 マネジメント力								
学校組織における連携・協働	・幅広い分野の経験に基づいて、学校全体の動きを見通し、建設的な提言をしなが業務を推進している。							
危機管理	・児童生徒集団に目を配り、危機を察知した際は、率先して迅速な行動をとっている。							
関係者等との連携・協働	・関係者との良好な関係を生かして、積極的に情報共有を図り、教育活動に生かしている。							
5 復興教育の視点								
	・地域の実情・課題に応じて、児童生徒が、様々な教科等での学びを通して地域や関係機関と積極的に関わりながら、震災の経験や教訓を学ぶ機会を設定するなど、復興教育を展開し、復興・発展を支える人づくりに取り組んでいる。							
6 キャリア教育の視点								
	・家庭、地域、企業、関係機関との関係を積極的に築きながら、キャリア教育を展開している。 ・児童生徒の主体的な進路選択に資するよう、ライフデザイン能力の育成を図っている。							
7 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への教育の視点								
特別支援教育	・校内支援体制構築の必要性を理解し、教職員間の共通理解や関係機関との連携・協働に主体的に取り組んでいる。							
多様性への配慮	・特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の特性等を理解し、多様性への配慮の視点を持ちながら、学習上・生活上の支援に向けて組織的に取り組んでいる。							
8 ICTや情報・教育データの利活用の視点								
	・学校におけるICT活用の意義を理解し、授業や校務等での積極的・効果的な活用を図るとともに、児童生徒の情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための授業実践等を行っている。 ・幅広く教育データを活用し、自らの指導の改善と、児童生徒の学習の改善を図ることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に取り組んでいる。							

※「自己評価」 4:よく当てはまる 3:どちらかというと当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない

自己の資質向上のために今後取り組みたい事項、伸ばしたい力 等	※ 備考欄
--------------------------------	-------

資質向上のためのセルフチェックシート 【教諭】

所属	
氏名	

記入年月日	令和	年	月	日
記入年月日	令和	年	月	日

キャリア・ライフステージ	実践力の発展期
年齢・教職経験年数(目安)	38歳～47歳 ・ 16～25年
目指す教員像	中堅としての役割と責任を自覚し、同僚教員の資質向上を支援しながら、校内外に広く目を向け、関係者と連携して学校運営を牽引している。
岩手の基本研修	ステージアップ研修<前期>(45歳～)

資質向上に関する指標	自己評価 ※							
	(①基本研修時)				(②年度末)			
	4	3	2	1	4	3	2	1
1 教員としての素養								
自ら学び続ける意欲・探究心	<ul style="list-style-type: none"> 全ての児童生徒の可能性を引き出すため、「個別最適な学び」「協働的な学び」など「令和の日本型学校教育」を理解するとともに、時代や社会の変化、キャリア・ライフステージに応じて求められる資質を高めながら、自律的に学び、探究する姿勢を持ち続けている。 							
使命感、責任感、倫理観	<ul style="list-style-type: none"> 教員としての使命や責任、岩手の教育を担う一員であることを深く自覚し、教育への情熱と誇り、高い倫理観を持っている。また、岩手の未来を担う児童生徒の生命を尊重し、自ら、そして組織におけるコンプライアンスの徹底に取り組んでいる。 							
教育的愛情、人権意識	<ul style="list-style-type: none"> 教育に携わる者として児童生徒に対する深い愛情を持ち、真剣に向き合っている。また、「子どもの権利条約」や「こども基本法」などの理念を踏まえ、人権尊重の意識を身に付けている。 							
豊かな人間性	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな人間性を持ち、社会人としての常識や幅広い教養を身に付けている。 							
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> 学校内外の様々な背景・価値観を持つ人々との対話を通して、円滑なコミュニケーションを図るとともに、チームとして課題解決に取り組むことの重要性を深く認識している。 							
課題に立ち向かう力	<ul style="list-style-type: none"> 心身共に健康で、様々な状況でも感情をコントロールしながら、忍耐力とチャレンジ精神を持って、新たな教育課題を含む様々な課題解決に取り組んでいる。 							
2 学習指導力								
カリキュラム・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編成・実施・評価・改善に関する中核的役割を果たすとともに、学びの連続性や教科等横断的な視点を持って、学習指導の充実を牽引している。 							
教科教育等の専門性	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等に求められる資質・能力に基づき、指導と評価の充実に向けて組織的に取り組み、教科教育等の専門性向上を牽引している。 							
確かな学力を育む授業	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の発達段階や多様性に配慮しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に取り組み、学習者中心の授業が学校全体で展開されるよう牽引している。 							
3 生徒指導力								
発達支持的生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 多様性に配慮した児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導相互の調和を図った生徒指導に向けて同僚を支援するなど、学校全体の発達支持的生徒指導を牽引している。 							
いじめ等の問題行動・不登校等への対応	<ul style="list-style-type: none"> いじめ等の問題行動・不登校等の解決に向け、指導計画の策定や児童生徒への指導、関係機関との連携等に関し中核的役割を担い、学校としての対応を牽引している。 							
教育相談	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーや養護教諭など同僚と指導方針を共有し、教育相談を分担するなど、組織的な教育相談を牽引している。 							
4 マネジメント力								
学校組織における連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> 同僚の業務を支援するとともに、学校内外の動きを考慮しながら、評価・改善の視点を持って各種業務を推進している。 							
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> 危機を察知した際は、関係機関と適切に連携をとり主体的に行動するなど、危機対応を牽引している。 							
関係者等との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> 関係者と連携した教育活動の際、積極的に調整役を担っている。 							
5 復興教育の視点								
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の実情・課題に応じて、学校全体の教育活動と関連付けながら、児童生徒が、家庭や地域、関係機関・団体等と協働して、震災の経験や教訓を学ぶ機会を設定するなど、学校としての復興教育を牽引している。 							
6 キャリア教育の視点								
	<ul style="list-style-type: none"> 家庭、地域、企業、関係機関との連絡・調整に関する中核的役割を担い、校内外の関係者と協働しながらキャリア教育を牽引している。 							
7 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への教育の視点								
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 学校が組織的に行う校内支援体制の整備について、関係機関と連携協働しながら牽引している。 							
多様性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 多様性への配慮に関する見識に基づき、特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の特性等を理解して、学習上・生活上の支援に向けた組織的な取組を牽引している。 							
8 ICTや情報・教育データの利活用視点								
	<ul style="list-style-type: none"> 学校におけるICT活用の意義を理解し、授業や校務等での積極的・効果的な活用を図るとともに、児童生徒の情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための授業実践等を行っている。 							
	<ul style="list-style-type: none"> 幅広く教育データを活用し、自らの指導の改善と、児童生徒の学習の改善を図ることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に取り組んでいる。 							

※「自己評価」4:よく当てはまる 3:どちらかという当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない

自己の資質向上のために今後取り組みたい事項、伸ばしたい力等	※ 備考欄
-------------------------------	-------

資質向上のためのセルフチェックシート 【教諭】

所属	
氏名	

記入年月日	令和	年	月	日
記入年月日	令和	年	月	日

キャリア・ライフステージ	総合力の発揮期
年齢・教職経験年数(目安)	48歳～ ・ 26年～
目指す教員像	教諭としてのこれまでの実践を基に、総合力を発揮しながら円滑な学校運営に貢献している。また、教員としてのこれまでの豊富な経験を踏まえ、若手教員へのサポートを行うなど、人材育成に貢献している。
岩手の基本研修	ステージアップ研修<後期>(55歳～)

資質向上に関する指標	自己評価 ※							
	(①基本研修時)				(②年度末)			
	4	3	2	1	4	3	2	1
1 教員としての素養								
自ら学び続ける意欲・探究心	全ての児童生徒の可能性を引き出すため、「個別最適な学び」「協働的な学び」など「令和の日本型学校教育」を理解するとともに、時代や社会の変化、キャリア・ライフステージに応じて求められる資質を高めながら、自律的に学び、探究する姿勢を持续している。							
使命感、責任感、倫理観	教員としての使命や責任、岩手の教育を担う一員であることを深く自覚し、教育への情熱と誇り、高い倫理観を持っている。また、岩手の未来を担う児童生徒の生命を尊重し、自ら、そして組織におけるコンプライアンスの徹底に取り組んでいる。							
教育的愛情、人権意識	教育に携わる者として児童生徒に対する深い愛情を持ち、真剣に向き合っている。また、「子どもの権利条約」や「こども基本法」などの理念を踏まえ、人権尊重の意識を身に付けている。							
豊かな人間性	豊かな人間性を持ち、社会人としての常識や幅広い教養を身に付けている。							
コミュニケーション力	学校内外の様々な背景・価値観を持つ人々との対話を通して、円滑なコミュニケーションを図るとともに、チームとして課題解決に取り組むことの重要性を深く認識している。							
課題に立ち向かう力	心身共に健康で、様々な状況でも感情をコントロールしながら、忍耐力とチャレンジ精神を持って、新たな教育課題を含む様々な課題解決に取り組んでいる。							
2 学習指導力								
カリキュラム・マネジメント	教育課程の編成・実施・評価・改善に関する指導的役割を果たすとともに、学びの連続性や教科等横断的な視点を持って周囲に助言するなど、学習指導の充実に貢献している。							
教科教育等の専門性	各教科等に求められる資質・能力に基づき、指導と評価の充実に向けて組織的に取り組み、同僚教員に助言するなど、教科教育等の専門性向上に貢献している。							
確かな学力を育む授業	児童生徒の発達段階や多様性に配慮しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、学習者中心の授業づくりに向けた助言など、学校全体の授業改善に貢献している。							
3 生徒指導力								
発達支持的生徒指導	多様性に配慮した児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導相互の調和を図った生徒指導に向けて助言するなど、学校全体の発達支持的生徒指導の実現に貢献している。							
いじめ等の問題行動・不登校等への対応	学校全体の動きに気を配り、同僚の課題解決を支援するなど、いじめ等の問題行動・不登校等の解決に向けた学校全体の対応力向上に貢献している。							
教育相談	保護者等からの教育相談等に対して受容的に対処し、適切に助言するスキルを高めながら、同僚の育成に努めている。							
4 マネジメント力								
学校組織における連携・協働	学校全体の状況を踏まえ、管理職に改善方策などを提案し、調整を図りながら業務を推進している。							
危機管理	学校全体に気を配り、同僚に適切な助言を行うなど、学校における危機管理体制の構築に貢献している。							
関係者等との連携・協働	関係者との信頼関係を築き、地域の教育資源を教育活動に繋げている。							
5 復興教育の視点								
	今後予想される自然災害等に備えた実践的・実効的な防災教育を推進するとともに、指導計画の立案や校内体制の構築、教育課程の編成などを組織的・計画的に進め、教育活動全体を通じた復興教育の充実に貢献している。							
6 キャリア教育の視点								
	学校のキャリア教育に関する全体計画の立案、校内体制の構築など、社会の変化に応じたキャリア教育の具体的な推進に貢献している。							
7 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への教育の視点								
特別支援教育	校内支援体制の充実や教職員の専門性の向上など、児童生徒のニーズに応える教育に貢献している。							
多様性への配慮	多様性への配慮に関する見識に基づき、関係機関等との連携を進めながら、特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への組織的な支援に貢献している。							
8 ICTや情報・教育データの活用力の視点								
	学校におけるICT活用の意義を理解し、授業や校務等での積極的・効果的な活用を図るとともに、児童生徒の情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための授業実践等を行っている。							
	幅広く教育データを活用し、自らの指導の改善と、児童生徒の学習の改善を図ることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に取り組んでいる。							

※「自己評価」4:よく当てはまる 3:どちらかというと当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない

自己の資質向上のために今後取り組みたい事項、伸ばしたい力 等	※ 備考欄
--------------------------------	-------

資質向上のためのセルフチェックシート 【校長】

所属	
氏名	

記入年月日	令和	年	月	日
記入年月日	令和	年	月	日

キャリア・ライフステージ	総合力の発揮期（校長）
年齢・教職経験年数(目安)	校長
目指す教員像	教職員の能力を把握して必要な支援を行い、関係者との連携・協働を図りながら、学校を組織体として機能させ、学校教育目標を達成している。
岩手の基本研修	新任校長研修

資質向上に関する指標		自己評価 ※							
		①基本研修時				②年度末			
		4	3	2	1	4	3	2	1
1 校長としての素養									
教諭として高めてきた素養・資質						/	/	/	/
教育者としての高い見識	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員をはじめ、児童生徒・保護者・関係者に説明できる教育哲学・理念がある。 ・豊かな経験に基づく確かな判断力、決断力、リーダーシップを有している。 ・地域住民や関係機関の期待を受け止め、職務の重要性を自覚している。 ・国・県・市町村の教育施策等について情報収集し、教職員に周知している。 								
2 マネジメント力									
学校経営計画の達成	<ul style="list-style-type: none"> ・自校の現状や児童生徒・保護者・地域・関係者のニーズを把握し、経営計画を策定している。 ・学校の経営資源を最適化し、進行管理することで、目指す学校像や育てたい児童生徒像の実現に努めている。 ・教育課程に関するPDCAを実践し、課題解決を図りながら学校教育目標の具現化に努めている。 ・学校経営計画等に、特別支援教育に関する目標を適切に設定し、児童生徒の多様性を踏まえた学びの機会を提供している。 								
教職員の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が、各自の強みを発揮しながら組織的に活躍できる適切な校務分掌を編成している。 ・教職員の日常のサービスを管理し、不祥事の未然防止に努めている。 ・教職員のメンタルヘルスを含めた健康・安全・働き方に配慮し、業務改善を図りながら、ハラスメントのない風通しのよい職場風土を醸成している。 ・ICTの効果的な活用などを通じて、働き方改革を実現し、教職員の長時間労働の解消に努めている。 								
教職員の人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の特性を見出し、日常的に資質向上やライフプランに関する指導・助言を行っている。 ・教員等育成指標や個々の教職員の研修履歴等を踏まえ、対話に基づく受講奨励等を行うとともに、OJTや校内研修等を活用し、教職員個々の資質や組織としての対応力を向上させている。 								
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等を含めた危機発生時の適切な初動対応を図るとともに、学校事故・いじめ・不登校等の未然防止に努め、当事者・保護者に対し組織的かつ迅速・的確に対応している。 ・学校安全・学校保健・食育等に関する計画を策定し、周知・理解を徹底している。 								
事務管理	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍・文書・財務・施設の管理について、法令等に基づき適切に行っている。 								
関係者等との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭・地域・関係機関と適切に連携・協働し、より良い学校運営に努めている。 ・学校教育目標・経営計画等について、学校運営協議会委員等の理解を得るとともに、保護者や地域に対して積極的に発信している。 ・自ら、学校内外の関係者に働きかけ、その相互作用により、学校としての教育力の最大化を図っている。 								
学校をとりまく情報の収集・分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なデータや、学校が置かれている内外の環境に関する情報について、自ら収集・整理・分析するとともに、必要に応じて教職員や関係者との間で共有している。 								

※「自己評価」 4:よく当てはまる 3:どちらかというと当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない

自己の資質向上のために今後取り組みたい事項、伸ばしたい力等	※ 備考欄
-------------------------------	-------